

当院乳腺・内分泌外科を受診している患者さんへ

当院では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会で倫理的観点及び科学的観点から中立的かつ公正に審査され、研究機関の長に認められた研究です。今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。この研究へのご質問や研究に係る相談だけでなく、個人情報の開示を希望される場合、研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧を希望される場合は、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。研究計画書等は、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で閲覧が可能です。

記

研究課題名	乳がん患者の治療における Phase Angle を含めた全身状態の変化
研究機関の長(試料・情報の管理責任者)	愛知医科大学病院 病院長 道勇学
研究責任者	(所属) リハビリテーション医学講座(職名)教授(氏名)尾川貴洋
研究対象	2019 年 1 月 1 日～2029 年 5 月 31 日までに当院リハビリテーションセンターで術前術後の治療を受けた乳がん患者さん
研究期間	研究実施承認日～2029 年 5 月 31 日
研究目的及び利用方法	【研究目的】 近年乳がん患者さんの生活の質を向上させるために、リハビリテーション治療の提供機会が増えてきています。リハビリテーション治療を実施する上で患者さんの全身状態を把握することはとても重要です。海外では、全身状態の把握のために体成分分析装置(Inbody BWA (Inbody 社製))から算出される位相角(細胞膜の健康度)を一つの指標としていますが、日本人における位相角を指標とした報告は少ないです。本研究は当院でリハビリテーション治療を受けた乳がん患者さんの位相角やその他の情報を調べ、より良いリハビリテーション治療を提供することを目的としています。 【利用方法】 外来通院や入院中に診療・治療上の検査・測定や問診によって得られた患者さんの基本情報、医学的情報、リハビリテーション評価を収集してデータ登録を行います。その情報をもとに、術前化学療法の有無が位相角を含めた全身状態に及ぼす影響を検討します。 【外部への試料・情報の提供】 非該当 【外部への提供開始】 非該当
研究に用いる試料・情報の取得方法及び項目	試料：非該当 情報：診療録（カルテ）から年齢、性別、既往歴、血液検査結果、位相角、がんのステージ、術式、サブタイプ分類、栄養評価、術前化学療法の内容と有無、術後の治療内容、リハビリ記録等を取得
提供する試料・情報を用いる学外の研究責任	非該当

者	
試料・情報を利用する 学外の者	非該当
試料・情報の利用又は 提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2029 年 8 月 31 日までにリハビリテーションセンター窓口での受付、電話等により下記問い合わせ先まで申し出てください。
外国への試料・情報の 提供	非該当
問い合わせ先	愛知医科大学病院 リハビリテーション部 担当者：(職名) 理学療法士 (氏名) 加藤史子 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又 1 番地 1 電話 0561-62-3311 (内線 36900)